

小布施辞典

あいうえ
おぶせ

第 6 号

か で読む
小布施

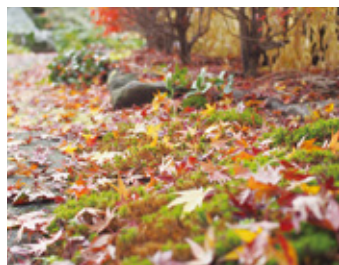
TAKE FREE



「か」で読む小布施。

CONTENTS

- 04 「か」からはじまる小布施町、おしえてください。
- 06 紙芝居 - 物語ボックス -
- 12 家具作家 - Art & Craft よしのや 吉川 喜啓 -
- 16 カレーライス
- 19 掛軸 - 鷲毛堂 掛軸工房 OBUSE -
- 20 ㍻ - かねいち くつろぎサロン -
- 21 カラオケ
- 22 桂亭
- 23 カブトムシ
- 25 オブセにナンカ妖怪
- 26 おばあちゃんの背中
- 29 編集後記



栗とお砂糖だけでつくった、こっくりした栗あんに、
大きな栗の粒を合わせた「純栗かの子」。
120年以上愛され続けるおいしさは今も昔も変わりません。
みなさまの一年のご多幸を祈って……
縁起物の栗きんとんをまじりけのないおいしさでお届けします。

か
わ
ら
な
い、
お
い
し
さ。
。



信州小布施で栗菓子二百年
桜井  甘精堂



かわり
つづける
まち

かわいい孫
の暮らす
小布施町

カエル合戦
かわいい娘が
いるお店
りるも♡!!

果実も
おいしい

からこんと
一息の
小布施町

カレーが
おいしい
Tsumugi CAFE

カラフル
な
織り座

輝くビーズ
あふせて
つくりました!

かわうとん
300円/枚

かんじる
心
おぶせ

かすみ
のいる
まち

家族の笑顔
小布施町
愛(あふ)

「か」からはじまる小布施町、おしえてください。

かおりの
ステキな
小布施です。

雁田山

カシバ
小布施
ようかいやか

帰りたく
なるころ

カラオケ
エンブラン

燗酒に
やきとり食べて
酔酔と

かかやく
未来の
おぶせをつくる

甘味美味しい
堺井甘新堂

感じる事が
多い町
果物市場のお店

果実の
まち

葛飾
北斎

帰ってきていいよ♡
小布施町

number.01

かみしばい

【紙芝居】

小布施のまちなかを歩いていると
そこかしこに見かける
紙芝居型の屋根付きボックス。
5枚のパネルからなる物語は
すべて小布施町にまつわる
民話が綴られています。
正式名称は「物語ボックス」。
これがどのように生まれたのか、
そのルーツをたどりました。



小布施町中心部にたたずむ 10基の「物語ボックス」

「昔」むかし、あるところに...」そんな語り
口で語られる地域の昔話や伝承。暮ら
しのなかのほのぼのとした喜びや笑い、悲しみ
などが長い年月をかけて語り継がれたもので、
物語にふれるとどこか懐かしさや人間の普遍的
な喜怒哀楽を感じる気持ちに包まれます。

そんな過去と未来をつなぐ小布施町の民話
を紙芝居仕立てにしたものが、まちなかで見
かける「物語ボックス」。昔ながらの言葉づか
いで綴られた文章と趣のあるイラストが描か
れた5枚綴りのパネルで、ふすまを開けるよう
に次の場面へと読み進めていくユニークな仕掛
けが特徴です。物語は、雁田山のふもとに住
む染色上手な娘・おまんの人生を描いた「お
まんの布地」や、徳川家康の姫が松代の殿様
に嫁ぐときの化粧料として小布施に栗を植え
たという「まんない姫と小布施栗」など郷土
の歴史にちなんだもの。押羽の里を訪ねた神
様の目に栗が落ちて以来、この地では栗が植
えられなくなった「栗と神様」という民話に
ついては、なんと今でも実際に押羽地区には栗
が1本も生えていないというから驚きます。

この「物語ボックス」の数は全部で10基。ま
ちの中心部と岩松院、おぶせミュージアム・中
島千波館前に設置されていて、観光客や親子連
れのまちの住民、小学生たちが興味深そうに立



ち止まって紙芝居を眺めている姿は、小布施で
見慣れた風景になっています。

ふすま式紙芝居をヒントに 生まれたオリジナル紙芝居

そんな「物語ボックス」が設置されたのは平
成13年。小布施町役場で働く池田清人さんのア
イデアから始まりました。「物語ボックス」に先
駆け、まちでは平成4年に新しい文化拠点とし
ておぶせミュージアム・中島千波館を設立。平
成10年には「小布施音楽祭」も始まるなど、ま
さに文化のまちとして「潤いのあるまちづくり」
を進めているところでした。そうしたなか、町民
有志も店舗のショーウィンドウに美術品などを
展示し、楽しくまちを歩けるよう工夫していた
ことから、池田さんも「まち歩きをしながら小
布施の歴史が伝わるものがつくれたら」と考え、
県内各地を歩いてヒントを探訪。たどり着いた
のが、世界の童話や信州の民話を展示している
「黒姫童話館」の室内用ふすま式紙芝居でした。

これをアレンジして、耐久性に優れた全天
候型タイプにしたのが「物語ボックス」です。
パネルはアルミ製で、枠組みもスライドはス
ムーズながら子どもが指を挟まないようス
トッパーを装着。何度も試作を重ね、雨水が
たまらないよう形状にも工夫しました。

展示する物語はもちろん、郷土史からセレク
ト。まずは小布施に伝わる民話や伝承をすべ
て洗い出そうと、当時のおぶせミュージアム学

物語ボックスのおはなしたち



子どもの好きな如来さま

如来さまが奉られた福原のお堂に子どもが入れないよう、格子戸を取り付けたところ、おかみさんが病氣になってしまい…。



竜灯の雨ごい

毎日日照りが続き、百姓たちは困っていた。そこで、「観音さまにお願いしよう」とみんなで玄照寺に集まり雨ごいをする…。



狐どんの道案内

つい飲みすぎて帰りが遅くなってしまった実五郎。あたりは暗闇で道もわからない。すると先日どじょうをあげた狐の声がして…。



あわて男の善光寺参り

山王島の彦作がある日、善光寺にお参りするために家を出る。しかし彦作のあわてん坊の性格ゆえ、道中で愉快な出来事が起こる。



まんない姫と小布施栗

小布施が栗の名所となったきっかけといわれるのおはなし。昔、徳川家康に「まんない姫」という器量の良くない姫がいて…。



あきかさん

あきかさんとは横町に奉られていた秋葉権現のこと。ある日、隣町で大火が起こり、町の人々があきかさんに無事をお祈りすると…。



北斎と鴻山と(世間話)

「天保の大飢饉」のときの鴻山の活躍から、北斎に出会い小布施へ招いて多くの作品を残すまでのおはなし。



西向きの大日さん

大日堂の前を馬が通ると急に暴れ出し落馬してしまう。困った村人がお堂のなかの石仏を調べると、そこには秘密が…。



おまんの布池

雁田山のふもとに染物がたいそう上手なおまんという娘がいた。ある日、殿さまから「褐色の布」を献上するよう命じられ…。



(右)「物語ボックス」の制作に携わった池田清人さんと、荒井陽子さん。(左)「物語ボックス」のもとにもなった、「小布施百話」。



こうして設置された小布施だけのオリジナル紙芝居「物語ボックス」。

まちづくりに向けたアイデアが新たな小布施の文化に

芸員だった荒井陽子さんと一緒に県立図書館などに足を運び、さまざまな逸話を集めました。加えて、まちの方々が戦時体験や農業の思い出話などを寄稿するあたりで年に1回ほど発行される小布施町文化協会郷土史の会の『小布施百話』や須高地区の童話なども徹底的に検索しました。さらに民話に詳しい古老から話を聞くなど、あらゆる手を尽くして集めたのがおよそ65話。これらを、黒姫児童館館長の羽生田敏さんの協力のもと、まちで知られている伝承を中心に絞り込み、1年もの時間をかけてなんとか10話にまとめました。

そして、集まった物語をベースに、羽生田さんと高橋忠治さん、和田登さんという3名の北信在住の児童文学者がオリジナル作品というかたちで絵本風の文面を執筆。イラストは小布施町にアトリエを構える丸山武彦さんから北信の5人の画家が手がけ、水彩画だけでなく切り絵もある、さまざまな作風の「物語ボックス」が完成しました。



栗と神様

小布施の押羽という地域には1本も栗の木がはえていない。なぜかという昔、神様が押羽を訪れたときに起こった事件が原因だった。

『おもてなし』の精神を大切にしてきたから、この事業はまちの人の気持ちにと重なったんじゃないかな。やはり、このまちみたいに小さな土壌ではおもしろい取り組みや文化事業をやっているかといつまらない。文化や芸術はお手本があるわけじゃないから、とにかく自分できつていかないとね」

そんな池田さんの思いが込められた「物語ボックス」。完成までのストーリーを知ってから改めて読むと、これまでと違った発見があるかもしれない。すでに何度も読み慣れた人も、ときにはボックスの前で足を止めて、じっくりと紙芝居の世界にふけてみませんか。

カレーだけじゃないんです。

郷の パーティーコース

お料理 2,500円(税込)

オードブル盛合わせ
漬けサーモンのサラダ わさび風味
ポテトフライ
オブセ牛乳で作った熱々グラタン
栃尾揚げのロースト
生ハムのサラダ
焼カレー

12月・1月限定
+2,000円で飲み放題

樽生よなよなエール
セルフカクテル
ソフトドリンク
※10名様以上でご注文ください

※お料理の内容は一例です ※写真は5名様のお料理です

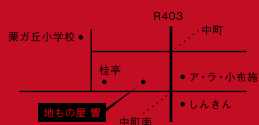
長野県産樽生クラフトビールあります！

地もの屋
YREKA



地麦酒
地葡萄酒
地旬肴

長野県上高井郡小布施町大字小布施 1101
TEL.026-247-6911
コースの詳細は電話にてお問い合わせください。



至岩松院

北斎と鴻山と

つすみ保育園

花公園

フローラルガーデン

町営駐車場入口

北信濃くだもの街道

中松中央

岩松院入口

栗ガ丘幼稚園
歴史民俗資料館

六川南

小布施中学校

総合
体育館

町営村松駐車場

町営村松駐車場

西向きの大日さん

おまんの布池

あわて男の善光寺参り

栗の小径

まんない姫と小布施栗

桜井甘精堂

ア・ラ・
小布施

しんきん

国道 403 号線

皇大神社

交番

あきかさん

子どもの好きな如来さま

栗と神様

商工会館

栗ガ丘
小学校

役場

狐どんの道案内

小布施駅

おさんぽしながら
探してみよう！

**物語ボックス
設置 MAP**

町内の 10 箇所に設置されている物語ボックス。駅から岩松院に向かって歩いていくと、順に楽しむことができますよ！

日々の生活のなかで必ず手にふれる家具。
暮らしを豊かに彩るインテリアの主役です。

そんな家具を手がける地として

小布施町を選び

世界でひとつの注文家具を製作する、

古川喜啓さんを訪ねました。



古川 喜啓 Yoshihiro Furukawa

家具作家。須坂市出身。高校卒業後、東京のテレビ局の舞台美術で働きつつミュージシャンを志し、メジャーレーベルよりレコードデビュー。26歳で帰京後、注文家具屋で3年間の修業を積み、1991年に小布施で工房開設。1999年、同町にギャラリー「Art&Craft よしのや」をオープン。

小布施に魅力を感じ

注文家具の製作拠点に

小 布施の中心部、中町の交差点を北東へ。「おぶせミュージアム」やクラフト作家のギャラリーなどが建ち並び観音通り（通称、ギヤマン通り）は、町のアートが集結するエリアです。その一角にあるのが「Art&Craft よしのや」。家具作家 古川喜啓さんが手がける木製家具のショールームです。蔵造りの重厚な扉を開けると、古川さんが製作したシンプルで洗練されたフォルムのオリジナル家具をはじめ、奥様と選んだ作家ものの器や生活雑貨、木のおもちゃなどがずらり。薪ストーブが備えられた店内には暖かい空気が漂い、木のぬくもりと相まって穏やかな雰囲気になっています。

古川さんが家具職人になったのは29年前。もともと手作業と音楽が好きで、東京でミュージシャンをめざしながらテレビ局の舞台美術を担当していました。20代後半で地元・須坂市に帰郷。舞台美術で培った技術を生かして市内の注文家具屋で3年間働き、1991年に独立しました。工房として選んだのは、小布施町内の浄光寺近くの元牛舎。大きな

設備を置けるスペースがあり、作業中に音を出しても近隣の迷惑にならないことを考えたのだそう。改装は自らの手で行いました。

「小布施は北斎が逗留していたという魅力もあるし、まちのサイズがコンパクトでいいですね。大きな都市だと人のつながりは強くなりませんが、人口1万人弱の小布施は良くも悪くもお互いがわかるのがいいんですよ。それに、住んでいる方も、おもしろい人が多いですね」

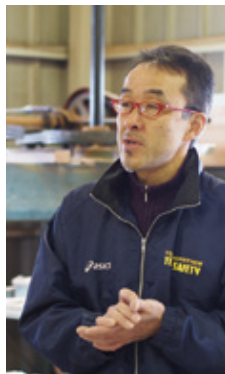
屋号の「よしのや」は、かつて祖父が営んでいた建具屋と祖母が始めた家業の魚屋の名称がいずれも「よしのや」だったことから名付けました。独立後、縁あって小布施町内の穀平味噌ギヤラリーで個展を行うと、その丁寧な創作家具は瞬く間に評判に。こうして軌道に乗り、1999年には現在のショールームをオープンしました。今ではインターネットからの依頼を中心に、3カ月待ちということもあるほど、注文家具のオーダーが続々と入っています。

インターネットから生まれる信頼関係の背景にあるもの

そんな古川さんが製作する家具は

基本的に和洋問いませんが、北欧スタイルのデザイン家具。

「若い頃は金具が付いた和家具のデザインが好きでしたが、年とともにシンプルで細部が凝っている北欧家具が好きになってきましたね」現在、北は北海道から南は屋久島、さらに海外はニューヨークからも注文が入ります。いずれも従来の知り合いではなく、9割ほどは「Art&Craft よしのや」のホームページを見ての依頼。メールのみのやりとりでの製作も多いものの、そこにも温かみを感じるのが古川さんの仕事。ホームページのどくと、機能美とぬくもりが両立したデザインの作品が並び、これまで製作した家具の詳細や完成までのエピソードが丁寧に記されていて、古川さんの実直な人柄が伝わってきます。さらに、コンテンツの中にはライフワークとしてほかの木工作家の工房を訪ねてレポートするページも。これは自らの勉強も含めて同業者に向けて書いているそう。そんなところからも古川さんが楽しみながらも真摯に仕事に向き合っている様子を感じ取ることができます。



クロカン、スノーシュー
のアウトドアイベント
の拠点にも！



デザイン性を重視した椅子も手がける古川さん。U字脚のデザインが特徴的なこの椅子は、現在、国際的な公募展に出展中。



玄関で靴を履いたり脱いだりするのに便利なサポートスツール。Art&Craftよしのやを代表するロングセラーの玄関椅子です。



古川さんのお気に入りの「リトチェア」。ダイニングチェアやパーソナルチェアとしても使える人気商品です。

公募展での受賞が 家具の使い手の喜びに

そんな古川さんが「最近のお気に入り」と挙げるのが、「リトチェア」。東京在住のリトちゃんという女の子の名前を拝借したこの椅子、かつてリトちゃんのご両親のオーダーで小学校の入学時に作った学習机をきっかけに、リトちゃんの成長とともに、その後中学進学に合わせて製作した椅子です。無駄を削ぎ落としたシン

快適な暮らしのために作り手と使い手がお互いを信頼し、大量生産では作り出せない、ただひとつのものを製作する注文家具。それは決して安いものではなく、これまで知らない相手にメールのみでオーダーするのは大きな不安も伴います。しかし、「この人に頼んでみたいな」という気持ちを掻き立てられるワクワク感が「Art&Craftよしのや」のホームページには溢れています。そして、毎日の暮らしのなかで使うテーブルや椅子、空間にストーリーが生まれる楽しみも、古川さんの注文家具からは感じ取ることができます。

ブルなデザインで、蒸気で曲げた背もたれが体を心地よく包みます。「個人的に好きなのは椅子の製作です。デザインも難しく、安定性や安全性も考慮しないといけない難しさもありますが、作っていて楽しんですよね」

そうした椅子のなかでも、最近多く注文が入るのが、玄関の狭いスペースで靴を着脱するのに便利なサポートスツール「玄関椅子」。朝日新聞社主催「第6回暮らしの中の木の椅子展」に入選した作品で、なんと、年間50脚ほども製作しているのだとか。来年1月には「東京ミッドタウン」で展示も行われます。「こうした公募展にはこれからも積極的に応募したい」と話す古川さん。

「例えばブランドものの洋服を着ていると、それだけで誰かに言いたくなるように、僕が賞を取ると家具をオーダーしてくれたお客さんが喜んでくれるんですね。そのためにも公募展で数多く受賞したいんです」

そんな職人魂もまた、古川さんが作り出す家具の魅力。この熱い思いから唯一無二の魅力をもった家具が生まれています。



Art&Craft よしのや
小布施町小布施 609-1
☎ 026-242-6606
10:00～18:00 (1・2月は10:00～17:00) / 水曜定休 (祝祭日は営業)
yoshinoya@ac-yoshinoya.com





05.

野菜、肉の形がほとんどなくなるまでじっくりと煮込まれた辛口のチキンカレーをバターライスと一緒に召し上げれば一口食べると程よい辛味と、野菜やりんごの甘味を感じることができます。小布施産の栗も一緒にお楽しみください！自家製チャツネ・ピクルス付き。

おもてなし利へい

小布施町小布施 1111 1F / 090-7419-7819 / 10時30分～16時 / 不定休のため、お問い合わせください。



04.

野菜のみ使用した、ベジタリアンの方もOKのカレーライス。メニュー名通り、たっぷりの野菜を使用しており、一口食べるとその甘味に驚いてしまいます。子どもから大人まで楽しめ、15時過ぎまで提供しているので小腹が空いたときにもおすすめ！サラダ・ドリンク付き。

ア・ラ・小布施

小布施町小布施 789 / 026-247-5050 / 9時～17時 (L.O.16時30分) / 定休日なし (12月～3月のみ火曜定休 / 営業時間10時～16時) / <http://ala-obuse.com>



06. 小布施蔵カレー ランチセット ¥990

信濃地鶏からとったダシが効いたスープカレー。素揚げされた地元産のみずみずしい野菜と長野県産のコシヒカリとの相性は抜群です！別メニューの焼カレーも人気です。ランチセットはサラダ・ヨーグルト付き。

地もの屋 響

小布施町小布施 1101 / 026-247-6911 / 11時30分～14時30分、18時～22時30分 / 月曜定休

number.03



レーライス×鑑

【かれーらいす】

いつの時代も、老若男女だれからも愛される定番メニュー「カレーライス」。ここ、小布施町にもカレー大好き子の舌をうならせる カレーライス、ありますよ！「小布施でカレー？聞いたことないな。」なんて言ってるそのあなた！まだまだ小布施についての勉強が足りていませんね。ほら、カレーライスを提供しているお店がこんなにあるんです。しかも、お店ごとに工夫が凝らされていて、どのお店に行っても他とはまた一味も二味も違ったカレーライスが楽しめるんです。……そろそろ、カレーライスが食べたくなくなってきませんか？



キーマカレー ¥800

野菜とひき肉をふんだんに使用した、酸味・辛味・甘味のバランスがとても良い、キーマカレー。真ん中の温泉卵を割る瞬間がなんとも幸せです。こちらのカレー、半分ほど食べたら、特製のオリジナルソースをかけてみてください。1食でふたつの違った味が楽しめますよ！

TSUMUGI CAFE

小布施町小布施 1499 / 026-214-3915 / 11時～17時 / 不定休 / <http://tsumugi-cafe.jp>

03.



チンプルカリー ¥854

バングラデシュへの医療支援がきっかけとなって、現地の方からご指導いただいたという、創業当時から変わらぬ伝統の味はメイブルのメニューでも不動の人気。辛口のチキンカレーですが野菜の甘みがうまく調和して、辛味が苦手な方でもペロリと食べられちゃいます！ミニサラダ付き。

カフェレストラン メイブル

小布施町小布施 851-4 / 026-247-5847 / 8時30分～17時 (L.O.16時30分) ※土曜日は15時まで (L.O.14時30分) / 日曜、祝日定休

01.



トマトのビーフカレー ¥900

02.

トマトを3種使用した、インド風のカレーライス。1日かけて餡色に炒めた玉ねぎにトマト、りんご、牛肉やスパイスを加え、じっくりと煮込んで旨さを凝縮させます。ヨーグルトの酸味が隠し味！完成に3～4日かかるという本格カレーを召し上げられ！

KITCHEN 穴GOHAN

小布施町雁田 1194 (穴観音の湯2F) / 026-214-2449 / 11時～15時、17時～20時30分 (L.O.20時)

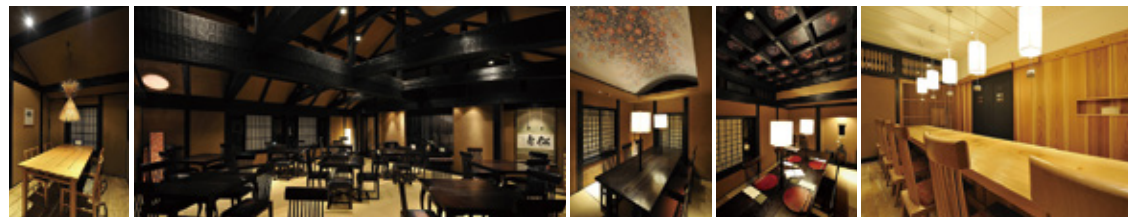
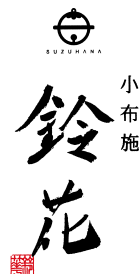
か

い石料理から
季節のお膳まで
味わえます。

お客様との出会いは、一期一会。
鈴花では
お客様に安心して召し上がって
いただける旬の食材を、
地元中心に厳選。

信州・小布施の地で
百年後も遺る建物、
そこで繋いでいきたい

商いへの想いを込めた空間で
至福の時をお過ごしください。



電話 026-247-6487

小布施町小布施102-1

昼11:30-14:30 夜17:30-21:30 水曜定休

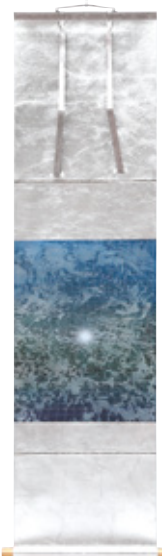
www.obuse-suzuhana.com



(右上)「花が舞う」掛け軸。桐原さんのデザインが作品の個性と魅力を際立たせます。(左上) 軸部分の先に付ける「軸先」も自ら焼く桐原さん。作品ごとにバールに仕上げたり金箔を貼ったり手びねりにしたりとさまざま。(下) ご自宅の工房にて。桐原さんの仕事と人柄に魅了された作家さんたちはここに遠方からでも訪ねてくるそう。



世の中にふたつとない作品の
世界観をさらに広げる独自の感性。
豊かな表現力が生きる、
掛軸職人の手仕事。



(左上) 表裏全面プラチナで仕上げた掛軸。(右下) 飯川書塾 塾生、宮川陽菜さん(栗力丘小6年)の作品。(左下) 竹久夢二の肉筆画で、町内の「和喰料理あど部」から依頼されたもの。



鷺毛堂
掛軸工房 OBUSE
小布施町福原160-3
☎026-285-0815
http://www.kobo-obuse.com

number.04

か

けじく

【掛軸】

小布施町・福原

日本画や書画を表装し、美しく仕立てる掛軸職人。伝統の知識や技術のみならず、それぞれの作品の背景にある作者の思いや風情などを感じ取り、自分なりのデザインで魅力ある掛軸へと昇華させる仕事です。そんな掛軸職人として小布施で活動をする桐原学さん。「花が舞う」と書かれた書には夜桜をイメージして黒い生地に桜のように金箔を散らせ、台紙を斜めにずらしてほろ酔い気分を表現したり、竹久夢二の肉筆画には「一文字」と呼ばれる作品の上下に当たる部分に銀箔を貼り、古く見えるよう硫黄成分を塗って上からアイロンで焦がしたり……と、その手法はさまざま。いずれも作者からの要望があるわけではなく、桐原さんが生み出した独自のアイデアと技法です。そんな桐原さんのこだわりが、作品の裏を感じ取り、作者が想像で

きないこと、気付いていないものを表現すること。「だから悩んで眠れない日が多いけど、苦しみから抜け出すことが仕事の面白さですね」こうした桐原さんの感性を求めて、著名な書家や画家をはじめ、有名アパレルブランドなどからも注文が入ります。しかしそれだけでなく「もっと子どもたちにも掛軸に関心をもってもらいたい」と桐原さん。最近では長野県書道展で特選に入選した小学生のために掛軸を制作し、特別な思いを感じたようです。「この子は近所の書塾の生徒さんなんです。書道を一生涯習えばこんな成果が得られることも、子どもたちのうちに経験させてあげたいですね」こうした思いを込めて制作される桐原さんの掛軸。その個性はとも魅力的に映ります。

かねいち

「こ」
小布施町 横町

友 達と食べ物を持ち寄って集まれる手頃なスペース、自分の趣味に没頭できる静かな空間。旅の疲れを癒してくれる休憩場所。そんなところがあつたらしいな、そう思ったこと、一度はありませんか？ 巷ではそんな願いに応えて、様々な場所でコワーキングスペースが数を増やしていますが、ここ、小布施町にもありますよ！ おもてなしの心に溢れた、小布施流コワーキングスペース。それが「こ」（かねいち）くつろぎサロン”です。

一見すると普通の「立派なお宅」の外観ですが、ここに「おぶせまちゅう図書館」の白い旗がかかっていれば「自由に入つていいですよ」の合図。壁一面の本棚に、6人ほど座れるテーブル、足を伸ばせる畳スペースや台所まで完備されています。「使用料は一切かかりませんし、この部屋の中は全部無料で利用できますよ」そう笑顔で話すのはこのサロンをつくった内山英行さん・源子さん夫妻。

もともとこの場所は源子さんのご実家で、大正4年〜昭和40年代、

からねい

「カラオケ」
小布施町・東町

喫 茶モンブラン”。その名前を聞いたほとんどの方が、小布施栗のモンブランケーキを想像するのではないでしょうか。いいえ、違います。ここは「カラオケ喫茶モンブラン」。お茶を飲みながらカラオケが楽しめる、町内唯一のカラオケ屋さんなんです。

「モンブラン」はおよそ25年ほど前に現店主・岩井八郎さんの娘さんが喫茶店としてオープンさせましたが、4年ほどして県外にお嫁に行くことに。そこで、もともとカラオケが趣味であつた岩井さんがカラオケ喫茶として再度オープンさせ、今のかたちになりました。ちなみに「モンブラン」という店の名前はケーキのモンブランでなく、ヨーロッパの山の名前が由来とのこと。

「好きでやっているから気楽なものだよ」そう岩井さんの話すとおり、お客さんはたいがいご予約で、歌が好きな友人たちが集まるそう。この日は毎月1回のお楽しみ会ということもあつて、仲間たちが大勢集まり、

海産物や調味料を取り扱う商店でしたが、店が閉まってからは、ずっと物置状態に。10年ほど前にお二人が小布施に移住したのをきっかけに、ここをまちのために使えないかと考えたのが始まりでした。サロンの名前は商店の「こ」（かねいち）という屋号を使用、なるべく当時のものを残して改修をしているため、なかにはお宝では!? と思えるものも、ちらほら。サロン内のカレンダーに事前に書き込めば貸切での利用も可能です。

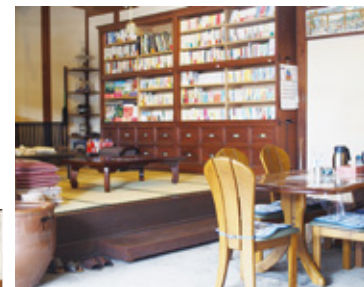
「オープンガーデンのように」外はみんなのもの”という精神が小布施にはある気がします。交流の場も広がり良い出会いもありますよ”そんな内山さん夫妻の人柄もサロンの魅力。商店時代とは形を変えながら「かねいち」はまちの人々のコミュニケーションの場として生き続けています。



「かねいち」
くつろぎサロン
小布施町小布施1093
☎026-247-2005
9:00〜17:00 / 不定休
※おぶせどりの旗が出ていないときは休館です



海産物などの保存に使っていた雪室もそのまま残っています。秘密の地下みたい！



戸棚や壺、使えるものは全てそのまま使用しているのどこか懐かしい雰囲気。初めての方も自然とくつろげてしまいます。



当時の「文藝春秋」や戦前の教科書も自由に閲覧できます。保存状態もとても綺麗です。



100年間受け継がれる
かねいちの名前と、交流の場。
そこはいつの時代もきつと、
おもてなしの心で溢れていたのでしょう。

「かねいち」の屋号で商店をしていた頃の貴重な写真。ご先祖様も「かねいち」の復活を喜んでに違いありません。



(右) 店主の岩井八郎さん。(上) 岩井さんの実力を物語る、トロフィーの数々のほんの一部。

うたを通じて広がる、友人の輪。
趣味からはじめたカラオケ屋さんが、今では町内の憩いの場所に。

カラオケを披露。その場では自分とはとんと歌うことなく、進行役をつとめる岩井さんですが、ふとお店の隅を見上げると、県内外のカラオケ大会のトロフィーがずらり。全部岩井さんのものだといひので、その歌声は相当のよう！
岩井さんはお店のほかに本誌の「え号」で紹介した演歌歌手・瀬名ひとみさんのデビューをきっかけに、まちでうたを広めようと歌謡連盟を立ち上げ、その事務局の取りまとめ役にもなっています。「うたを歌っているといつまでも元気になれる」と言うように、お客さんのなかには90歳に近い方も！ もちろん最近のうたもそろっているの若い方も楽しめます。個室でないが故に、たまたま居合わせたお客さん同士が友人になるなんてことも多いようです。
人前で歌うのは恥ずかしい、なんて方もお茶のみがてらちよつと足を運んでみてはいかがでしょう。新しい出会いや発見があるかもしれませんよ。



カラオケ喫茶 モンブラン
小布施町小布施 234
☎026-247-2926
12:00〜16:00, 18:00〜
22:00 / 日曜定休



3本の栗の木があった頃の写真がこちら。当時は「栗の木3本竹風堂」というキャッチコピーを使用していたとのこと。



渋谷がハチ公ならば、小布施はカブトムシ。
いつの間にか当たり前の存在になった
「竹風堂のカブトムシ」の謎、ご存知ですか？

number.08

か

ぶとむし

「カブトムシ」
小布施町・上町

竹

風堂の前にたたずむ、大きなカブトムシの親子のモニュメント。それはもはや、まちの一部の風景として馴染み、「どうしてここにカブトムシがいるんだろう」という疑問を抱く人は少ないのではないだろうか。

このモニュメントの作者はステンレス彫刻家の中嶋大道さん。安曇野市に工房を持ち、昆虫や動物をメインとした巨大な作品を県内外にたくさん作り出しています。中嶋さんと竹風堂の出会いは昭和63年の本店オープンの際のこと。中嶋さんは友人の作家の作品搬入の手伝いで竹風堂を訪れていました。当時、今の「自在屋」の前には大きな栗の木が3本生えていて、それを見た中嶋さんが「ここにカブトムシのモニュメントを置きませんか」と自



ら提案をしたことが最初のきっかけ。日本的な建物と近代的なアートの融和を当時の竹風堂の代表が面白く思い、およそ一年の時間をかけて中嶋さんのアイデアが実現しました。

ツノを立て、栗の木に差しかかろうとするカブトムシのモニュメント。それは大変見事で話題となりましたが、残念なことに何年かして木は枯れてしまい、今ではカブトムシは中庭に移されましたが、まちのシンボルとしてのカブトムシの親子は町内外のたくさんの人から愛され続けています。

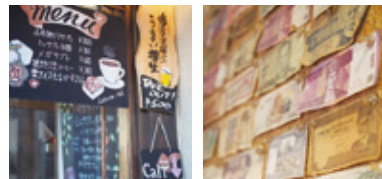
さて、実は竹風堂内には他にも中嶋さんの作品があります。空を舞う2匹のトンボと、実り実った三つ栗のモニュメント。是非、近隣を訪れた際には探してみてくださいね。



竹風堂 (小布施本店)

小布施町小布施 973 / ☎026-247-2569
8:00~19:00 (冬季10月~3月は18:00まで)
年中無休 (1月1日と年2日の臨時休業を除く)
<http://chikufudo.com>

モニュメントの設置場所は敷地内を移動することがあります。



number.07

か

つらてい

「桂亭」
小布施町・横町

ここは、常連さんから愛される
まさに小布施の「なんでも屋さん」。
人情味あふれる、関西出身のマスターが営む「桂亭」。

日のお昼過ぎ、カランカラン
と扉をあけると、カウンター
にはスポーツ新聞を読みながら野球
中継を見る常連さんの姿。店内の
黒板には手書きのイラストと、お品
書き。壁には、ここを訪れたお客さ
んが持ってきたのか、所狭しと世界
各国の紙幣が無造作に貼られてい
ます。この、どこか懐かしい喫茶店
のような雰囲気は漂うお店の名前
は「桂亭」。およそ20年前に店主の
福居良弘さんが当時のおぼせの里
ドライブインの一部で立ち食いうどん
ん・そば屋をはじめ、その2年後に
現在の横町でお店を開きました。

「はじめはこも、うどん・そば屋
だったんだけど、串あげや、オリジ
ナルブランドの「栗サブレ」をはじ
めて、その後もどんどんお客さんの
声に応えていたら、いつの間にか何
でも屋さんになっていったよ」と笑い

ながら話す福居さんの言うとおり、
おつまみから日替わり定食(選べる
小鉢は9種類！)、サンドイッチまで、
メニューの数は福居さんも把握でき
ていないほど。加えて、お座敷をリ
ニューアルして宴会などの大人数に
対応したり、オードブルの注文も引
き受けるなど、お客さんを想う気持
ちとバイタリティーは人一倍です。



串とめん処 桂亭

小布施町横町 1099
☎026-247-4541
11:30~14:30, 17:30~
21:30 / 月曜定休、日曜
不定休 (夜は予約のみ
営業)

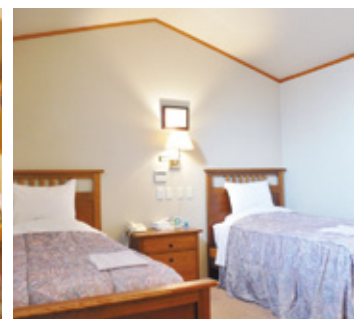
「今後の目標はメニューを減らす
ことかな」なんて冗談めかして話
す福居さんですが、数年後にはさ
らに新しいことをはじめていそう
な予感も……。お客さんと共に進化し
続ける「桂亭」、今後も注目です！

プチホテルア・ラ・小布施

PETIT
HOTEL
a·la·
OBUSE

か えりたくなる場所。

小布施の中心地に古くから残る土蔵を再生した4部屋のプチホテル。
外観は昔の面影を残しながら内装は落ち着いた洋風空間で
快適な小布施滞在をご提供いたします。



おかげ様で20年！1月11日～3月3日（ご利用）地域の皆さまに感謝をこめて還元宿泊プラン
須賀地区お住まいの方からのご予約で、お得なお泊りプランをご用意いたします。

PETIT HOTEL a·la·OBUSE

（旧称 ゲストハウス小布施）381-0201 長野県上高井郡小布施町小布施789
TEL.026-247-5050 MAIL.info@ala-obuse.com

併設

ガイドセンター 9:00～17:00

喫茶 9:00～17:00（L.O.16:30）

※12～3月のみ火曜定休
営業時間10:00～16:00

1月22日は、カレーの日。

第1回カレーフェアご好評につき、
第2回は「カレーの日」にちなみ、この冬開催決定！
カレー大好き人はお問い合わせを！

お問い合わせ ア・ラ・小布施ガイドセンター



高井鴻山記念館館長
金田功子



小布施のホットピープルを妖怪にしちゃうこの企画、今回はまちの妖怪ス
ポットといえばこゝ。北斎を小布施に招き、自身も妖怪を描いたことで
有名な高井鴻山ですが、その記念館の館長を務める金田功子さんがターゲットに！
今年で館長として4年目の金田さんですが、もともとは東京の出版社勤務。実
家のりんご農家を手伝うために1989年にUターンし、旦那さんとともに会社
勤め、子育て、農業の三足のわらじを履きながら懸命に生活を送ってこられたそ
うですが、お話をうかがうと、小布施の話が出てくる出てくる！北斎、鴻山はも
ちろん、果ては古地図から見る地籍の移り変わりまで……。ほかから素敵な笑
顔のご婦人ですが、なんともタダモノではない気配が漂います。そ
れもそのはず、なんと金田さんは町民ならおなじみの文化誌「栗
の詩」を発行していた「ひいらぎ書房」の経営者だったのです。
3年前、50号を最後に終刊した栗の詩
ですが、創刊から一貫して地元
に密着した取材を重ね、まちの
人からの信頼は絶大。春・秋
はりんご、夏・冬は編集と、農
業とのバランスをとりながら出版業をされてき
たこのことで、「生活のためだよ」なんておっ
しゃいますが、小布施らしい、素敵なワークラ
イフバランスです。小布施郷土史研究会にも加わ
り、『小布施の民俗』や『高井鴻山伝』の編集など、



文車妖妃（ラトルマヨウヒ）

歴史や知識を伝えているけれど、
という思いが宿り、
古文書が変化した妖怪。
日々小布施のことを調べ、
町民に楽しく伝えている。
子どもが相手だと
特に大好き！

まちの歴史に関わるさまざまな活動をされたそう
で、「郷土を愛するたくさんの方々に、い
ろいろ教えてもらったよ」と懐かしそうに
語ってくださいました。
現在工事中の高井鴻山記念館ですが、
春にはリニューアルオープン予定。それ
までは高井鴻山にまつわる資料「高井
家文書」の整理、研究に動かしむとのこ
とです。「今の小布施のまちづくりがあ
るのには、北斎を小布施に呼んだ鴻山さ
んあつてのもの。まちの人たちに、もっ
と鴻山さんに興味を持ってほしいです
ね」とのこと。最近では授業の一環で中学
生が訪ねることも増えたようで、「嬉しいん
だよそれがらー」と、この日一番の笑顔を見
せてくれました（か、かわいい……）。
そんな郷土を愛する情報通・金田さんを妖怪にすると「文車妖妃」。
古きも新しきも、まちのことならんどこい！金田さんに会いに
行くと知らなかった小布施が見えてきますよ。



必殺取材ノート！えんぴつ
を舐め舐め、町中を駆け回って
なんでも調べちゃいます。金田さんに
隠し事はできないぜ！？



おばあちゃんの背中

おばちゃんのお手製料理のレシピをお宅訪問取材、調理中のライブレポートとともに紹介する『おばちゃんの背中』。連載6回目を迎えた今回は、『瓶づめばぁちゃん』とも呼ばれ愛される、唐澤文子さんにその得意の瓶づめ料理を教えていただきます。

近所の農家さんから余った果物を頂くと、おれにそれをジャムにしてあげる……それが一番の楽しみだという文子さん。今回は美味しいと評判の「りんごのジャム」をお願いすることにしました。

同居している娘さんに案内された広いキッチンにはたくさんの新品の瓶。その向こうに文子さん。ここは日常的にジャム作りが行われている様子。「始めますか」と出てきたのは、見たこともない大きな分厚い銅鍋……。銅鍋は熱伝導もよし、熱の対流もよし、更に丸底は食材に均一に熱を通し、まろやかで美味しい料理が出来ることで、料理好きなら誰もが憧れる鍋。思わず見と

しばらく話していると文子さんの言葉のイントネーションが少し違うことに気付く。聞けば栃木県の宇都宮出身とのこと。なんでこんなところまでお嫁に？と尋ねようとしたら、ここでいきなり文子さん中座！どうやら介護中のご主人のおやつ時間の模様：文子さん不在の中、娘さんと作業を進める：切り終えたりんごに砂糖を混ぜ30分待つ。「おばあちゃん：21歳の時、おじいちゃんを追いかけてきたんですよ：」娘さんが文子さんの口マンスをこっそり

Four glass jars filled with home-canned goods. The top row contains jars of orange jam and tomato sauce. The bottom row contains jars of dark jam and corn. A small cartoon character is perched on the lid of the tomato sauce jar.

今回のジャムも、

A close-up photograph of a small blue and white patterned bowl filled with a chunky, light-colored jam, likely grapefruit. The bowl sits on a dark wooden surface. In the background, several glass jars with white lids, also containing the same jam, are visible, along with a plate of bread slices topped with the jam. The image has a white border and a slightly distressed, torn-edge effect.

後でロマンスの詳細をうかがうと……宇

都宮の文子さんの実家に下宿し大学に通っていたご主人。麦酒会社に就職が決まっていたが、卒業と同時に親から、「就職先決まった辰れ」と電報が届き、ご主人は長野へと帰郷。そして須坂で高校教師となったご主人を身一つで追いかけて

レシピ紹介

りんごジャム(7本分)

- りんご 3kg
- 砂糖 1kg
- ビタミンC 小さじ1

きょうさん あいうえおぶせに協賛してくださっている方々を紹介します！

ツタハウス

ツタハウス
長野市権堂町 2341-1
www.facebook.com/tsutahouse



ICHI cafe

sandwich & coffee
ICHI cafe
小布施町大島 609-2
tel.070-2679-6618



Japan Obuse Committee
Japan Obuse Committee
一般社団法人日本小布施委員会



栗日記
www.usupi.org/kuri/



FREE PAPER 鶴と亀
www.fp-tsurokame.com/

ぷれぜんと

お礼者、お礼！

今号で取材した全てのもの・人・お店に訪れ、証拠写真を送ってくださった方、先着3名様に「か」からはじまる、小布施町の何かいいものをプレゼントいたします。

応募先
▶ aiueobuse@gmail.com

締切：「き」号発行日まで

ぼしゅうちゅう!!

「あいうえおぶせ」を置いてくださる方
「あいうえおぶせ」に協賛してくださる方
「あいうえおぶせ」に広告を出してくださる方

を大募集しております。「き」号を発行するために…
みなさんのお力が必要です。

へんしゅうこうき

行が変わり、「か」号。実は創刊当初から、ずっと取材したいと思っていた金田さんを念願の妖怪にすることができました。金田さんは町の文化誌、「栗の詩」を年2回、25年かけて50号まで発行した大先輩。「栗の詩」が終刊した次の年から、不思議なことに「あいうえおぶせ」がはじまりました。そんなご縁もあり、本をつくることの大変さをわかっているからこそ、創刊時から厳しくも暖かく、いつも応援してくださる金田さん。とても素敵な妖怪になりましたよ！わたしも、終刊したら妖怪になりたいなあ（編集かわうそ）

取材していると「こんな仕事あるんだなあ」と思うことが多々あるんですが、今回のそのひとつが掛軸職人さん。作者の要望ではなく作品からのインスピレーションで自由に創作していて、芸術を支える仕事もまた芸術なのだと目から鱗でした。ちなみにこの桐原さん、かつてはシルクロードを旅して新疆ウイグル自治区に1年も滞在していたり、軸先の作り方を学ぶために娘の中学校で陶芸部に参加していたりと生き方もアバンギャルド。そしてトークはノンストップ（笑）。残念ながら文字数に限りがあり話はほぼ割愛しましたが（汗）こういう出会いがあるから取材は面白いですね（編集S）

あいうえおぶせ 第6号「か」で読む小布施

発行日/2016年12月16日

編集・発行



MOUNTAIN DRIVE lab.

<http://www.aiueobuse.net>

<http://www.facebook.com/aiueobuse> (Facebook)

おばあちゃんの背中 取材・文章協力

松澤ゆかり (ICHI cafe)

オブセにナンカ妖怪 取材・イラスト・写真協力

妖怪倶楽部のみなさま

お問い合わせ



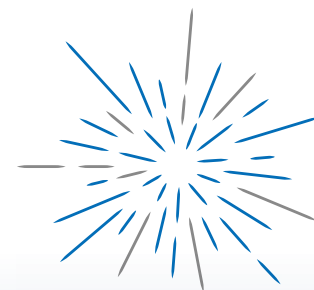
MOUNTAIN DRIVE lab. (マウンテンドライブラボ)

あいうえおぶせ編集部 aiueobuse@gmail.com

次号は…



ついに「か」行に手を出してしまった「あいうえおぶせ」。目指せ50音！まだまだ先は長いですが……。という訳で今年もご協力・応援していただいた皆さま、本当にありがとうございました！2017年は「き」からスタート。「き」からはじまる小布施町、どうぞ楽しみに！



小布施若者会議

Obuse Youth Conference

5TH

2017.2.17.fri - 2.19.sun

小布施の未来を描く3日間。

町内外から集う60名の若者と。

これからの小布施を語り、

ともに行動しませんか。

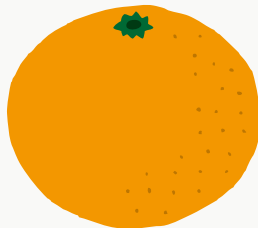
詳細は以下のウェブサイトへ

<http://obuse-conference.jp/>



か

どまつ、みかん、もんぶらん。



小布施堂の秋の限定商品「朱雀」を洋風にアレンジした「モンブラン朱雀」。
ナッツを忍ばせたセミフレッド（アイスクリーム）に
小布施堂自慢の栗のヌードルを贅沢に、たっぷりとかけました。
「モンブラン朱雀」は、モンブラン朱雀専門店「えんとつ」にて通年提供しております。
冬本番となるこれからの季節も、暖かい「えんとつ」でお待ちしております。



小布施堂



「モンブラン朱雀」専門店 えんとつ 営業時間：12時～16時（定休日 火曜日）
◎9月中旬～10月中旬：9時～14時（定休日なし）◎12月～2月：12時～14時（定休日なし）
モンブラン朱雀セット ¥1,250 のみのご提供となります。

とってもヘルシー 寒天麺

ふっくら ホクホク お芋のケーキ

ちょっと手づくり かんてんぱぱ®

寒天っておいしい。手づくりって楽しい。

つるりん 手づくりプリン

できたて 柔らか わらび餅

200種類以上の寒天製品が並ぶ、寒天専門店。
簡単に作れるデザートや素やお湯を注ぐだけでできるスープなどラインナップもさまざま。
ちょっと手作り、してみませんか？



かんてんぱぱショップ 小布施店
長野県小布施町中町 1117 TEL/026-242-6280
営業時間/9:00～18:30(冬季は～18:00)
定休日/年末年始を除き無休



か ねの鳴る、診療所

毎朝の診療開始を告げる鐘の音色が、
小布施のまちの空気に
あたたかい彩りをそえていきます。
日々の暮らしの中にとけこみ、
こころもやすまる診療所を目指して――。

 栗の木診療所

381-0201 長野県上高井郡小布施町小布施2252-1

内科・消化器科(胃腸科)・小児科・往診

診察日 月～土曜(平日: 8:30～12:00、15:00～18:00 土曜: 8:30～12:00) 休診日 日曜・祝日

tel.026-242-6565